

アリオン・セラピューティック・ファーム（非営利団体）

お話：

レポート：小林 清美

★概要

- ・ファーム見学
- ・プログラムについてのプレゼンテーション
- ・セラピー乗馬体験（オプション）

*本施設は障害を持つ子どもたちのために、乗馬を通じて行うセラピープログラム他多数を実施している。カナダならではの自然をいかした特別支援の在り方を知っていただくことができる。

★プログラム

アフタースクールプログラムで、下校後参加するプログラム。

- ① 特別支援児は動物とつながる力が強い。ここでは馬を連れてくる場所からさせて、ブラシかけなどの世話もしてもらおう。車いすや松葉杖や多動など障害の違いがあるが、子どもの様子に馬を合わせるようにしている。乗るだけが目的ではなく、馬との信頼関係を作ることが目的。
- ② 馬に乗れない子は、作り物の馬に乗って、前にある鏡を見て自分がまっすぐ乗れているかを見る。
- ③ 馬の歩くリズムは、人間の歩くリズムと同じ。馬に乗ることで、消化を良くし体幹を鍛え腕や首を強くし、またリラックス効果もある。
- ④ 馬に乗ったことがある子もない子も、馬に乗れたことで絶対に笑顔になる。
- ⑤ 馬に言葉で指示が出せない子や聞くことができない子には、馬にわかる指示を音声で出してくれる赤・黄・緑の



ボタンがついたベルトを着用し、必要に応じてボタンを押すとその音声で馬が動いてくれる。

- ⑥ 小学1年生から高校生まで利用している。体育の代わりに乗馬をすることで体育の単位をもらえるようになっている。
- ⑦ 行動介入の子には、馬に乗ることだけを目的としないで、どういう風に自分の気持ちを収めていくかのセラピーをする。
- ⑧ 多動の子ども達などは、やっている行動をクローズアップするのではなく、他のことがあることを教えて、健康的でポジティブなことを印象つけていくようにしている。
- ⑨ 手話の子には絵を見せる。自分で表現できない子も思っていることはあるので、絵を見せたりそのものを見せ

たりすると反応してくれる。

- ⑩ 子どもの状況は毎日違う。学校でトイレに行かない子が多いのでトイレに行かせたり、いつもと違う様子を見かけたら今日何があったかを探すことから始める。
- ⑪ 色々な障害の違いにスタッフが対応するのに心がけていることは、親とのコミュニケーションをとることと子どもの様子を良く観察する事。また学校やお医者さんなど行動観察のスペシャリストから意見をもらうこと。
- ⑫ ケロウナには4カ所の施設があるが、乗馬をしているのはこの施設だけ。営利目的ではないのとボランティアが100人必要なので運営は厳しい。障



害手当の補助金を充てているのと、政府からも補助金が出ている。

★視察しての感想

- ① 設定されたプログラムに子どもを合わせるのではなく、色々な子どもの状態に合わせて馬を選んだり内容を検討するという手間暇をかけた対応に感心しました。
- ② ひとりの子どものに必要なサポート体



制も、必要のない子にはつけないし、必要なら3人付けるといった一定ではないサポートは人手の確保など本当に大変だと思います。

- ③ また、色々な障害に対応できるように、耳の聞こえない子やしゃべれない子のためには色分けされたボタンを押すと馬に指示を出す道具があったり、本物の馬に乗れない子のためには作り物の馬で訓練したり、自分で乗れない子のためにリフトが設置されていたりと、不可能を可能にする工夫で、子どもの学びと成長を第一に考える姿勢がとてもよく感じることができました。

